

感想カード・アンケート集計

(グループワーク参加者 49 名中 34 名回収)

◆年 代

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
2	3	7	9	2	6	5	0

◆参加回数

初めて	2回目	3回目	4回目以上	不明
14	7	4	7	2

◆焼津市自治基本条例を知っているか？

知っている	聞いたことがある	全く知らない
26	7	1

◆市民集会で自分の思いを話したり、参加者の様々な意見を聞くことができたか？(複数可)

自分の想いを話すことができた	あまり話すことができなかった	色々な人の意見が聞けて良かった	話を聞いて新たな発見があった	楽しめなかった	その他
22	1	27	19	1	2

【その他の意見】

- ・ジェネレーションギャップと立場の違いにより、様々な意見が聞けた。
- ・初めてのことでもやってみればできる⇔努力する

◆本日の感想や言い足りなかったこと、with コロナの先を見据えて、どのように活動していくかなど何でもお書きください。

- ・「苦しい時こそ知恵をだす」ことの意義を確認しました。港23自治会の年度方針「工夫と相互の支え合い」が、このような形でも可能な事を知りました。
- ・グループワークにて発言させて頂きましたが、コロナ感染症により、計画した事業の中止及び延期等が起因し、コミュニティ活動が希薄になりがちなのが気になっています。当該地区は高齢者の構成比が高い地区の為、交通安全対策・新手の詐欺等の講座も3回目のワクチン接種が終了するまで延期するなど、事業計画の実施に苦労しています。従って、副作用として事業計画予算が次年度繰越となり、繰越金の増加となっています。
- ・ファシリテーターの方の円滑な進行で有意義な意見交換ができよかったです。一点要望としては、現状の共有だけでなく、建設的な議論に時間を費やしたかった点にあります。

コロナ禍における苦労やメリットの内容は飽和してきており、これからは建設的な提案に時間を割き、早いうちに取り組んでいくべきかと思いました。例えば、Zoomによるオンラインによる集会は試行回数が増えたことによりこのような会の開催における難易度が相対的に下がって来ていると思います。このような場を年に10回以上行うことで市民協働であったり、市民の市に対する帰属意識、当事者意識であったりは高まると思います。特に学生の社会参画のためには私たち社会人が社会の現状や学生に求めることなどを積極的に伝えることが必要であると感じました。若い力の活用のためには中堅層である、30代~50代の働き手年代が両世代のハブとなり、とくに総活躍していくべきと感じます。中堅層はプレーヤーでもあり、全年代の傾聴役でもあるためとても重要です。そんな年代のさらなる活性化に通じる活動が生まれたらうれしいと思います。この市民会議を通じて、参加者に対して熱を帯びてもらうことも重要と思います。イノベティブな「こんな風になったらいいな」「こんな仕組みがあったらいいな」の議論にさらに時間を割くことができるよう運営の方には頑張ってくださいと思います。市民会議で生まれたブレークスルーなアイデアが焼津を、日本を、世界を、地球を変えていくことを楽しみにしていますし、私もぜひ協力させていただきたく思います。

- 焼津第6自治会の大村区では、昨年12月に地域のミニデイサービスに参加するお年寄りを送迎する「けやきの会応援隊」をスタートさせました。これを機に通院や買い物等の支援する活動に広がればいいな、と思います。

コロナ禍の中で、外出の機会が少なくなったお年寄りが、with コロナで自由に出掛けることができるように、行政が市民の支え合い活動を支援する環境整備が必要になる。

- はじめての参加でしたが、世代を超えた意見を聞くことができ、参考になりました。コロナ禍だからこそできることを考えて、仕事に活かしていきたいと思います。募金関係で高校生にはお世話になっていますが、今回の集会では、普段聞くことのできない高校生の意見・気持ちも聞くことができ、若い力を活かせるような取組も考えていきたいです。
- 本日のまとめ発表者の高校生の方が言った、「コロナになって一つも良いことがなかった」が心に重かった。こういった生の声をもっと大きく取り上げて、小中高大生の率直な現状と「こうだといいな」という理想を聞いてみたいと思った。
- コロナによる状況の変化はとても早く、1か月先のことすら予測できないので、逆に「臨機応変に対応する力がついた」と前向きに捉えていこうと思った。
- お話をした方の年齢層が広がったので、沢山の提案が出て良かったです。学生の私にも話題をふってくださる機会が多く、会話に沢山参加でき、楽しかったです。今後、文化祭などでも地域の方々と連携が取れたらいいと思っています。
- 様々な立場からのコロナ禍での現状や課題を聴くことができました。このような場があることで接点ができ、互いの年代や地域が違ってても共通する課題解決策のヒントが見つかったりします。とても有意義な時間でした。市民がリアルに困っ

ていることに耳を傾け、一般質問や政策提言につなげることができないか検討してみます。

- 各種イベントが中止されることで、伝統行事などが継承できないことになるのは焼津の文化、日本の文化にとって大きな損失になってしまうというような発言をしたときに、もし感染対策を行うためにかかってしまう費用を行政として積極的に支援できるようにしていきたいと、議員としての自分の意見を伝えました。この感想カードを読んで、市民協働課から担当になる部局に是非とも強く提案していただきたい。（地域の伝統行事、スポーツ大会など、イベントの集客の規模に応じて最大〇円までという形で。）
- 当初に焼津商工会議所及び大井川商工会の皆さんがご苦労されて花火の打ち上げに携わってくれたことの紹介を頂きましたがグループ内での討議でそのテーマの内容につきまして話しが進むことなく時間がたってしまいました。
事業に携わって頂いた皆さんに感想と事業を進めて頂いた感謝の気持ちを伝えることができませんでした。大変、失礼を致しました。
翌日の1月9日の夜に藤枝市で新成人へのお祝いの花火を打ち上げられました。多分、商工会議所及び商工会の皆さんが実施されたことに感動をされてのことからと思います。皆さん有り難うございました。
- 副市長の挨拶で「従来の手法にとらわれることなく」、さらに「大きな転換点を迎えている」というコメントが印象的でした。具体的に、これまでの何をなぜどのように転換していくのか、私たち議会議員も問われていると感じました。まだ収束・終息には程遠いパンデミックです。誰一人取り残さないという理念を大事に議員活動を進めて行きたいと思います。グループワークではファシリテーターの雰囲気作りのおかげで和やかに意見交換ができました。高校生からは思い描いていた高校生活が何一つ楽しめていないというお話を聞き、大人が想像する以上に子どもたちのダメージは大きいと感じました。
- With コロナとしてはデジタル活用が主に考えられたが、お年寄り、デジタル苦手との課題もあり、対策としては若者がお年寄りと接する機会を増やしデジタル活用をサポートする。そうすることにより、若者がお年寄りから教わることも多いというメリットも考えられる。コロナ禍でソーシャルディスタンスをとるだけでなく、人と人が協力し合う必要性が再度認識された。
- 社会の中では、非接触型の工夫が様々に施されてきているため、人と人とのコミュニケーションが希薄になっている。また、社会のデジタル化推進で、そこについていけない高齢者世代が取り残されようとしている現状がある。「誰も取り残さない」精神できめ細やかな政策を考えていかなければならない。今回の市民集会では、意識ある高校生からの力強い言葉が聞けた。幅広い世代の人たちが、それぞれのできることを、力を結集して取り組むことで、難しいと考えることでもなしえていけると感じました。若者の声をもっと聴いてあげる場や機会を作っていくことが必要だと思います。

- ・コロナ禍、ガラッと変わってしまった社会生活で見えてきたこと、見えなくなってしまうこと感じてきたことを色々な世代・角度から聞くことができ良かった。特に高校性・大学生の貧困化、食料支援等援助する報告が数人からありその現実を共有した。支援を受けた学生からお礼を言われたこと、支援する側の手伝いをしたいと申し出があった。小さな力、ほんの少しの気持ちが伝わることを感じることができ「あたたかさ、元気」をもらった。初めて、それも画面でお会いした方とここまで話を進めてくれたファシリテーターに感謝。
- ・コロナ禍についてのグループワークでは、人と関わる機会が少なくなり残念という方と、逆に、家族と一緒にいる時間や、自分と向き合う時間が増えて大切なことに気づいたという意見を聞いた時、普段何気なく SNS で自分と同意見のコメントだけを見ていることに気づき、大勢の方の意見を対面で聞くことは大切なことだと感じました。今後も、世代性別問わず意見を言い合える市民集会を、リモートを活用し無理のないかたちで継続することは大切なことではと感じました。
- ・コロナの悪い影響ばかりが目立ちますが、良い変化があったり、工夫によって良い方向に改善できている話を聞いてよかった。日常生活や仕事でもそのようなことを意識していきたい。

オンラインで対面での話し合いとは違い、発言者以外の方の表情などが見れないことや、ファシリテーターを介さないと発言が難しい感じであったことで、苦労しました。
- ・様々な世代の方と話をすること、様々なグループの意見を聞くことができ、コロナ禍での現状を主体的に考える機会になりました。できない理由ではなく、できる方法を探し、見つけていくのは素敵だと思いました。私自身も意識していきたいです。

アドバイザーの松下先生も仰っていた「つながりの格差」、その通りだと思います。私自身もデジタルは苦手なので、今回のような機会をいただいたことで、自分の家の通信環境の見直し、zoom のやり方を詳しく知ることができました。頂いたマニュアルやこのアンケートも、とても丁寧で見やすく、答えやすく、心遣いがすごい、と感じました。ありがとうございました。
- ・グループワークの中で、飲食業とは逆に、在宅時間の増によってゴミ処理業者は忙しく人手不足という話があり、必ずしも「減」になる業種ばかりでないことを知りました。もっとも、業種間での雇用を調整できるか？となると難しいとは思いますが。

仕事とプライベートの別なく、これまで通りの活動のしにくさやストレスを抱えている一方、人と会うことができにくくなった状況で、より一層コミュニケーションが大切だと感じている方が多かったことが印象的でした。やはり、コミュニケーション手段として誰でも手軽にデジタル機器を使えるようにすることが課題でしょうか。
- ・昨年のはな火は、様々な組織で協力することができる焼津でなければ、できなかったという話を聞いて、市民と協力していくことができる、そのこと自体が焼津市にとって大きな財産であり、それを今後も維持していかなければならないと感じた。

- ・コロナ禍で様々な場面で多くの方が我慢を強いられているという現状が実感を持って語られていたのを聞くことができた。

できない(と思われていた)ことをやるには人とのつながりを密にしてやるのが大事だと思った。
- ・想像していたよりざっくばらんに話し合いができて楽しかったです。時間の経過も早く感じました。

年代・性別・立場の違う方々と話す機会が中々ないため、貴重な時間を過ごせました。コロナ禍だからこそ実現した「気付き」や「前進」を聞くことができました。

市民集会発で実際に事業が立ち上がって、その経過や結果が報告できれば、より一層まちづくりに参加や興味を持つ方が増えて、焼津が盛り上がるのではないかと思います。
- ・さまざまな年代のコロナ禍での状況が聞いて本当に良かった。特に10代のお話は全く聞ける機会がないので、大変貴重で刺激になりました。

ファシリテーターという役割がよくわからず、一対一の面接のような感じになってしまい、反省です。このような zoom 使用したものが今後も続くと思うので、意見交換の方法を探っていきたいです。
- ・コロナが流行りだしてから、人と対面で会う機会が少なくなってしまったという意見から、仕事がリモートワークになって移動範囲が小さくなり便利になったという意見があり、良いこと悪いことがあり、人間は工夫するという話がありました。会社では経費が余って焼肉弁当を貰ったという話が面白かったです。高校生の方は、学校は勉強だけといていたのが印象的でした。ここ2・3年でやってみたかったことができずにいることはもったいないですし、どう挽回できるんだろうと思いました。
- ・年代や職業がバラバラな方が参加していて、様々な角度からコロナ禍になって困っていることや解決したいことを伺うことができ大変貴重な経験になりました。

また、焼津市内の小学校を対象にした花火大会の感想を述べたり、感謝を伝え合うことができ、とてもいい空気のオンラインイベントであったなと感じました。

コロナ禍の中で、みんながそれぞれの強みを生かして、困っている人や問題になっていけるように、また、このような場に参加したいなと感じました。
- ・高校生(子ども)は大人と対話をするとき、思った以上にとても気を使っているようです。せっかく意見があっても飲み込んでしまい、対話になりません。なので、大人は子どもがしゃべりやすくなるよう配慮が必要だと感じました。

ファシリテーションのテクニックを駆使して対話ができる場を作れるといいなあと感じました。ファシリシオンのスキルが未熟で反省点が多くありました。

2人の高校生には、せっかく参加してくれたのに申し訳なく思います。
- ・初対面の方々と話し合いは、緊張の中にも新しい発見がたくさんあり、勉強になりました。

- 何か一つのことを成し遂げるためには一人一人が自分のこととして捉えることが大切であるという意見を聴き気付かされました。このことを今の自分の立場でどう伝えられるかを考えていく必要があることを感じました。

本日は、本当にありがとうございました。
- 昨年度、コロナで実施できなかったことを考えると、今回 ZOOM にて開催できたことはすごいことだと思いました。技術的な問題もあるかもしれませんが、今後もこの形式で開催してもいいのではないかと思いました。事務局の皆さんお疲れ様でした。
- コロナ禍では、マイナスが強調、共感や同調する傾向が多く感じました。

ファシリテーターさんの頑張りが、意見を引き出し、全員が話をできました。

高校生は地域の方と交流を望み、地域住民は若い世代に伝えたい、伝統文化や知識、経験があります。

マッチングできる仕組みづくりを構築できたら、「私のふるさと焼津」への誇りや信念が持てるのだろうと思いました。焼津の町家で焼津の若者へ、焼津で培われた伝統文化を伝承する企画を組むといったワークショップがあればよいかも。中高校生に来てもらい市民集会や自治基本条例を知るきっかけになればよいのではと思います。
- 様々な年齢・職種の方と出会い、置かれている境遇が異なる中でどう考えているのかを意見交換できたため、大変貴重な機会であったと感じている。

話し合いをすることで、「△△だったんだ」という気づきや、「〇〇しよう」という意欲が沸き、小さなことでも 1 人 1 人でやれる事はあるため、この市民集会を通じて、どんな事でもよいので行動を起こすことが重要であると感じた。
- コロナ禍によるステイホームの政策は年配の方を中心とした情報弱者が孤独を生んでしまっていたことに初めて気づかされた。

パソコンやスマホがある中で育った学生と WEB を学ぼうとする高齢者が集えるコミュニティが作れば良いと思った。
- 自治会内においても、他人任せの意識が増え、面倒な行事を避けがちになっていますが、一番身近なコミュニティの中でのつながりをどう維持するか、工夫のしどころだと思います。当事者意識をもった人財が、実行力を伴って地域の課題に対しアクションを起こす。学校教育を含め、地域での教育活動を今一度、考えていくべきではないかと思いません。
- 小学校のグラウンドで一齐に 13 か所同時に打ち上げられた花火は、子どもたちの思い出づくりの明るい計画、その裏にある情熱と努力を思い打ちあがった時に感動した。

リモートで初対面の人たちでのグループワークだったが想像以上の充実感だった。この出会いが“つながり”につながっていく機会があるといいなと思う。

きめ細やかな計画と連絡をしてくださった事務局のみなさまのおかげで充実した時間をもとことができました。ありがとうございました。

◆過去に参加した市民集会の内容を活動などに生かすことができましたか？

- 平穏なときは異なる意見が出たように思います。むしろ、今回の内容が皆さんの本当の気持ちではないだろうか。
- 今回で3回目の参加をさせて頂きました。過去のグループワークにて、それぞれの立場にての意見等を聞かせてもらいましたが、従来のコミュニティ活動が中心となり、新たな取組に取り入れていませんでした。今回の「まちづくり市民集会」の報告書を頂き、今後の自治会活動に生かせるものを選択し、コミュニティ活動に取り入れていきたいと考えています。
- 自治会連合会や各種の講演会、研修会に積極的に参加しているが、それらを参考に自治会活動に活かしている。
市民集会では、小さなことでも、まずはやってみよう！まずは知り合いを誘って、ということを教わった。
- 市民集会でつながった方と今でもSNSでつながっています。つながりができることで新しい情報が入ったり、協力できたり、様々なことに波及していきます。
- 多くの方々にお会いできずにいる状況の中で、zoomを活用して高校生から年配の方まで幅広い世代の方とお話できてとても良い機会をいただきました。
- 集会の翌日、感染対策をして開催された地元の「どんど焼き」の行事では参加された方々に行事のことを伺うと、怖さもあるけど、みんなと会って話す機会がやはり楽しく貴重だという意見が多く、今後一層非接触型に進むべき分野は広げつつも常に人とのつながりは大切にしたいと思いました。
- 令和2年1月に実施をされた時には、コロナ感染症の発生前でしたので多くの方が参加をされて自治会、町内会など、ご近所の話等、若い人から高齢者の方々まで地域、まちづくりについてご意見、お考えが出されたように覚えております。その後コロナ感染がはじまり市民集会に於いての内容を活かしていくことができませんでした。当時の内容は身近なことから人との繋がりの大切さを訴えられたように思います。もう一度、身近のことから始めることを考えています。
- 自由な意見交換はとても楽しい時間です。議員としていろんな声を聞くべきだと思っているのでいい機会になっています。ところで、今回も市の職員さんから面白いアイデアがありました。せっかくなので、こうしたアイデアを取りまとめてカタチする仕組みは作れないだろうか、と毎回感じます。あるいは市民提案を公募してプレゼン審査の会にしてもいいかも！市民公益活動事業補助事業等とはまた別の、自治基本条例に基づく市民提案事業の仕組みがあれば、参加意欲もいっそう高まりますね。
- これまでも参加させて頂きましたが、自分がどうかかわっていけばよいのかが不明瞭でしたので、実際に行動したことはありませんが、市民集会を継続させていくことで、参加してくれた高校生や大学生の皆さんのまちづくりへの意識が確実に変化している

ことを感じます。問題意識を共有することで、若者の積極的な行動を啓発できていると思いますし、議員は若者のストレートな声にしっかりと耳を傾けて、その思いを受け止め、行政へとつなげて行ってほしい。

- 今までの市民集会では組の入れ替えをすることで多くの声を聞くことができたのは良かったかもしれないが、今回の方が「つながり」を感じた。みなさんが事前にテーマを整理されていてルールに従って話し合うことができた。この2年間深刻な問題含め様々な相談ごとがありますが、立場を超えて自分のできることの共通性を感じる事ができた。「つながり」を感じる「喜び」を続けていきたい。
- 普段、あまり関わりのない年代の方などの話を聞くことができ、自分の立場だけでなく、相手の立場や考えを考慮して仕事をする事が大切だと感じ、実践するよう心掛けています。
- 前に参加したのが5・6年前になってしまうのですが、参加した後に、大学の卒業研究で、どのようにすれば、若い人が地域参加することができるか研究しました。今は、社会人として働いていて活動ができていませんが、地元の行政や観光のSNSをフォローし、見つけた情報にのっていたお店に行って食事をしたり、観光地に行ってみたりしています。
- 市民活動のよりよい成果をあげるために対話が大事だと感じて、活動に参加するメンバーがモヤモヤした気持ちにならない（解消する）よう心掛けているつもりです。
- 仕事面に反映し、世代や性別を超え活動する、生涯学習に取り入れました。地域での孤立を防ぐ、共通の趣味を互いに学びあい、高めあうことに意識を持って行っています。
- 市民集会参加後、何か自分ができることは無いか？日々の生活の中で考えるようになった。